

鶴岡アートフォーラム開館記念展

# BANDED BLUE 東北芸術工科大学の 28 作家



会期：2005年9月16日[金]～10月2日[日]

会場：鶴岡アートフォーラム

企画：鶴岡アートフォーラム(山形県鶴岡市馬場町13-3)

協力：東北芸術工科大学 協賛：株式会社カシマ

出展作家：安部定／市川美幸／太田和彦／岡村桂三郎／小沢明／加藤到／上條喬久／木原正徳／新村則人／末永敏明／谷善徳／内藤正敏／長沢明／西村宜起／信時茂／花澤洋太／馬場雄二／原すがね／番場三雄／保田井智之／前田耕成／松田魏／松村泰三／松本哲男／峯田義郎／山田修市／山中良子／若月公平

イベントゲスト：小沢明／加藤到／南條史生／花澤洋太／横文彦

アートディレクション・デザイン：上條喬久

展覧会構成・展示レイアウト：那須孝幸(鶴岡アートフォーラム学芸員)、宮本武典(東北芸術工科大学学芸員)

#### ◎上映会

「加藤到／実験映画作品集・上映と解説」

作家による作品解説を交えながら、短編映画7作品を上映。

作家：加藤到(映像作家、情報デザイン学科助教授)

日時：9月17日[土]19:00～

場所：フォーラム(鶴岡アートフォーラム内)

上映作品：「ゴランド」(1981年／8分)、「サスペンション・ブリッジ」(1983／8分)、「ワイパー」(1985／7分)、「WASHER」(1987／8分)、「MELTDOWN」(1988／11分)、「Zero-T.V.」(1989／10分)、「KAISEKI 料理」(2002／16分)

#### ◎ワークショップ

「アートフォーラム探索? からだを使って描こう!」

講師やアシスタント・ティーチャー(制作を応援する学生)とともに、館内を探索しながら、気になる場所をフロッタージュ技法(こすり絵：凹凸面に紙を置いて上から鉛筆などでこすって描く)で写し取り、巨大な作品を作り上げました。ワークショップ終了後は、アトリエでドキュメントを上映しました。

講師：花澤洋太(洋画家、美術家洋画コース専任講師)

日時：9月19日[月]13:00～16:00

場所：アトリエ、フォーラム(鶴岡アートフォーラム内)

対象：小学生(定員25名)

#### ◎レクチャー

「対談／鶴岡アートフォーラムの可能性」

鶴岡アートフォーラム設計者の小沢明学長と、森美術館副館長であり美術評論家の南條史生氏が、鶴岡アートフォーラムの機能に求められる役割や今後の可能性について語り合いました。

講師：小沢明(建築家、東北芸術工科大学学長)

南條史生(美術評論家、東北芸術工科大学大学院客員教授)日

日時：10月2日[日]14:00～

場所：フォーラム(鶴岡アートフォーラム内)

対象：一般(定員80名)

「講演／地域と建築」

これまでの横氏の活動をスライドで振り返りながら、建築における地域性などについての講演がおこなわれました。

講師：横文彦(建築家)

日時：10月1日[土]19:00～

場所：フォーラム(鶴岡アートフォーラム内)

対象：一般(定員80名)

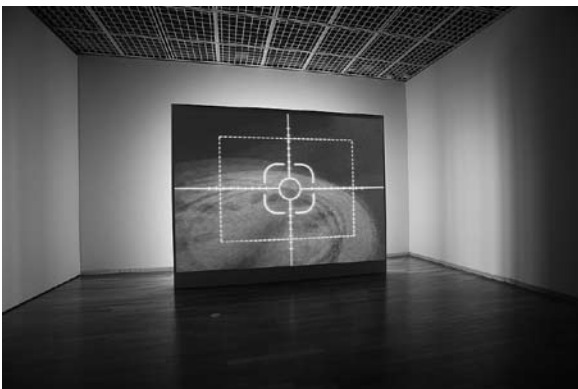
八月二七日、鶴岡市に「鶴岡アートフォーラム」が誕生しました。本学の小沢明学長が設計を担当したこの施設内には、市民の創作発表の場となるギャラリーをはじめ、工作や陶芸などの制作が行えるアトリエ、また講演会等に使用できる会議室など、充実した設備が整っているのが特徴です。また、フォーラムと呼ばれる階段状の吹き抜けスペースは、上映会やコンサート、ワークショップなどにも対応する広場として、活用の可能性を広げます。「ここは、市民の強い要望により実現した多目的施設。今後、市民同士の新たな交流や文化形成の場として地域に根ざしながら発信していきたいです」と鶴岡アートフォーラム主任学芸員的那須孝幸氏。

本学は、鶴岡アートフォーラム、鶴岡市とともに、九月十六日から一〇月二日まで、「BANDED BLUE 東北芸術工科大学の二八作家」を開催しました。一階ギャラリーに、彫刻、工芸、グラフィックデザイン、写真、映像、二階には、映像、日本画、洋画作品。また、通路を活用したエクステンションギャラリーや館外の広場や池などにも作品を設置。各教員がこれまでに制作した作品や今回の展覧会のために取り組んだ新作など、多彩なジャンルの作品が一堂に会し、教員二八名によるコラボレーションが展開されました。会期中は作品発表のほか、フォーラムで作品上映会やワークショップ、講演が、会議室では対談がそれぞれ開催され、ワークショップの作品と記録はアトリエに展示されました。今回の展覧会の準備に携わった那須氏は、こう言います。「芸工大の先生方にご協力いただいたおかげで、この施設が多岐に渡るジャンルの作品展示への対応性、また、展覧会に留まらないあらたな表現の場としての可能性を示すことができたと感じています」。

今回のタイトル「BANDED BLUE」は、「本学のアートとデザインの教育とは何かを考え、その可能性を追い求める教員の集団と団結を表しています。小沢学長は展覧会開催にあたり、次のように挨拶しています。

「今我々に求められているのは、アートとデザインに関わる教育を、表現の教育から表現者の教育へと転換することだと考えております。何を表現すべきかを考えることのできる表現者であることが原点にあります。そして最も大切なことは、まさに教育者である者みずからが表現者を目指している姿を、作品を通して示すことです。今回展示されております諸作品は、本学の教員であると同時に純粋な一人の作家・デザイナーの作品であり、表現者の姿そのものであるといえます」。

(広報誌 Fontaine No.42より)



(右上) 新村則人 無印良品キャンプ場 2005  
 (右中) 原すがね No one won the victory 2003  
 (右下) 小沢明 建築・鶴岡アートフォーラム 2005  
 (左上・左中) 2階展示風景  
 (左下) 加藤到 SPARKLING 1991



(右上) 若月公平 一枚の版による百の痕跡 2005

(右中) 峯田義郎 旅・風の門 2003

(右下) 安部定 HOMMAGE TO OTTO LILIENTHAL No.2 2005

(左上) 山中良子 Strata/light & shadow 2005 / 前田耕成 境界A 2003

(左下) 太田和彦 ポスター作品